

(提案10)

公開シンポジウム「家族のあり方を改めて考えるー最高裁大法廷判決からー」の開催について

1. 主 催：日本学術会議社会学委員会ジェンダー研究分科会、法学委員会ジェンダー法分科会
2. 共 催：未定
3. 後 援：未定
4. 日 時：平成28年2月22日（月）18：00～20：30
5. 場 所：学習院大学目白キャンパス
6. 分科会の開催：開催予定なし

7. 開催趣旨：

平成26年に日本学術会議のジェンダー関連4分科会（法学委員会ジェンダー法分科会、社会学委員会複合領域ジェンダー分科会、社会学委員会ジェンダー研究分科会、史学委員会歴史学とジェンダーに関する分科会）は、「男女共同参画社会の形成に向けた民法改正」の提言を行った。また、平成27年12月にはそれに関する司法の回答ともいうべき夫婦別姓、再婚禁止期間に対する大法廷判決を前に、前記提言のより一層の周知を図るための記者会見を日本学術会議で実施した。

本シンポジウムは、これらの活動を前提に、今回は平成27年12月16日に出された2つの大法廷判決を前提として、改めて家族のあり方について考えることを目的としている。

8. 次 第：

あいさつ・趣旨説明：

後藤 弘子*（日本学術会議第一部会員、千葉大学大学院専門法務研究科教授）

第1報告： 「夫婦別姓最高裁判決について」

調整中（夫婦別姓弁護団弁護士）

第2報告： 「家族法の立場から」

二宮 周平*（日本学術会議連携会員、立命館大学法学部教授）

第3報告： 「憲法の立場から」

辻村みよ子*（日本学術会議連携会員、明治大学法科大学院教授）

第4報告： 「社会学の立場から」

上野千鶴子*（日本学術会議連携会員、立命館大学先端総合学術研究科特別
招聘教授）

討論・コーディネーター：

遠藤 薫*（日本学術会議第一部会員、学習院大学法学部教授）

まとめ：

後藤 弘子*（日本学術会議第一部会員、千葉大学大学院専門法務研究科教
授）

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

(*印の登壇者は、主催分科会委員)

(提案 1 1)

公開シンポジウム「データ連携後の課題と展望 Symposium on Data Perspective beyond Alliances」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 情報学委員会 国際サイエンスデータ分科会

2. 共 催：名古屋大学宇宙地球環境研究所

3. 後 援：なし

4. 日 時：平成 28 年 3 月 4 日（金）13：00 ～17：00

5. 場 所：日本学術会議 6 階会議室

6. 分科会の開催：開催予定なし

7. 開催趣旨：

オープンアクセス、オープンデータ、オープンサイエンス、ビッグデータにおける、CODATA, WDS, RDA 等国际データ関連組織の諸活動を前提にしながら、人類益・国益そしてそれぞれにとって大切なことは何か、今、何をしなければならぬかを見極めるためのシンポジウムを開催し、以下の案件について日本からの提案を発信する機会にしたい。

今回は医・薬・健康・生命分野、物質・材料・人工物分野、地球惑星・環境等の分野について、付加価値生成（1次データから標準、規制へ、視点の違いによる価値の変容、データと発見）、データの品質（メタデータ、セマンティックス、シンタックス、計算データと意味論）、データと社会（不確実性、バイアス、データビジネスと人材）等の課題について重点的に議論する。

8. 次 第：

第 I 部 課題設定

13：00～ 研究会開催の主旨説明

岩田 修一*（日本学術会議連携会員、事業構想大学院大学教授、東京大学名誉教授）

13：20～ WDS 小委員会関連の活動の論点整理と課題設定

渡邊 堯（茨城大学名誉教授）

村山 泰啓*（日本学術会議特任連携会員、国立研究開発法人情報通信研究機構統合データシステム研究開発室長）

13：40～ CODATA 小委員会関連の活動の論点整理と課題設定

五條堀 孝*（日本学術会議特任連携会員、大学共同利用機関法人情報シ

ステム研究機構国立遺伝学研究所特任教授)

小関 敏彦* (日本学術会議連携会員、東京大学副学長・大学院工学系研究科教授)

14:00～ データ拠点小委員会関連の活動の論点整理と課題設定

長島 昭 (慶應大学名誉教授)

関口 智嗣* (日本学術会議連携会員、国立研究開発法人産業技術総合研究所副研究統括)

14:20～ 質疑応答、ディスカッション

14:40～ 休憩

第II部 総合討論

15:00～ 国際動向についての報告 (各15分)

• CODATA

岩田 修一* (日本学術会議連携会員、事業構想大学院大学教授、東京大学名誉教授)

五條堀 孝* (日本学術会議特任連携会員、大学共同利用機関法人情報システム研究機構国立遺伝学研究所特任教授)

長島 昭 (慶應大学名誉教授)

S. Hodson (CODATA Executive Director)

• WDS

渡邊 堯 (茨城大学名誉教授)

家森 俊彦 (京都大学理学部教授)

村山 泰啓* (日本学術会議特任連携会員、国立研究開発法人情報通信研究機構統合データシステム研究開発室長)

M. Mokrane (WDS IPO Executive Director)

• MI (Materials Integration)

小関 敏彦* (日本学術会議連携会員、東京大学副学長・大学院工学系研究科教授)

芦野 俊宏 (東洋大学国際地域学部教授)

• RS (Regulatory Science) & Standards/Data Journal

岩田 修一* (日本学術会議連携会員、事業構想大学院大学教授、東京大学名誉教授)

関口 智嗣* (日本学術会議連携会員、国立研究開発法人産業技術総合研究所副研究統括)

第III部 重点項目の検討

16:15～ 重点項目の検討

岩田 修一* (日本学術会議連携会員、事業構想大学院大学教授、東京大学名誉教授)

9. 関係部の承認の有無： 第三部承認

(*印の登壇者は、主催分科会委員)

(提案12)

「国際シンポジウム；東日本大震災・福島原発事故から5年」の開催について

1. 主催：日本学術会議 臨床医学委員会 放射線防護・リスクマネジメント分科会、福島県立医科大学
2. 共催：福島県、広島大学、長崎大学
3. 後援：復興庁、外務省、文部科学省、厚生労働省、環境省等
4. 日時：平成28年3月8日（火）13：00～17：00
5. 場所：福島県立医科大学講堂
6. 分科会の開催：開催予定なし

7. 開催趣旨

市民、そして女性の視点から、東日本大震災・福島原発事故発生以後の5年間を振り返り、福島で暮らす、そして子どもを育てるということについて、放射能や放射線への不安対策、放射線リスクコミュニケーションなどを総括する。特に、福島県立医科大学が実施してきた県民健康調査事業の取組と、公衆衛生学的な取組の中から、これからの生活を前向きに生きる女性の活力を討議する。

8. 次第

13:00 招待講演Ⅰ「専門家と住民との関わり：チェルノブイリ、そして福島の経験から」

座長	丹羽 太貫（公益財団法人放射線影響研究所理事長）
演者	ジャック・ロシャール（国際放射線防護委員会（ICRP）委員）

13:40 招請講演Ⅱ「市民からのメッセージ」

座長	<u>山下 俊一*</u> （日本学術会議第二部会員、長崎大学理事・副学長）
----	--

演者	安東 量子（福島エートス代表）
	伊藤ちはる（福島めばえ幼稚園副園長）
	大槻真由美（福島県伊達市市民）

14:40 休憩

14:50 発表：「福島県立医科大学からの報告」

座長	大津留 晶（福島県立医科大学医学部教授）
----	----------------------

演者 後藤 あや (福島県立医科大学医学部准教授)
緑川 早苗 (福島県立医科大学医学部准教授)

15:40 パネルディスカッション「この道を忘れず 未来につなげよう」
座長 神谷 研二* (日本学術会議第二部会員、広島大学副学
長・原爆放射線医科学研究所教授)

パネラー 安東 量子 (福島エーツス代表)
伊藤ちはる (福島めばえ幼稚園副園長)
大槻真由美 (福島県伊達市市民)
後藤 あや (福島県立医科大学医学部准教授)
緑川 早苗 (福島県立医科大学医学部准教授)

16:30 学生からのメッセージ
発表者 関根 萌 (福島県立医科大学医学部学生)

16:45 まとめ
阿部 正文 (福島県立医科大学総括副学長)

17:00 分 閉会

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

(*印の登壇者は、主催分科会委員)

(提案 13)

公開シンポジウム「物性物理学・一般物理学分野の展開と大型研究計画」の開催について

1. 主催：日本学術会議 物理学委員会 物性物理学・一般物理学分科会

2. 共催：なし

3. 後援：検討中

3. 日時：平成 28 年 3 月 11 日（金）9:30 ～ 17:10

4. 場所：日本学術会議講堂、ロビー・ラウンジ（ポスター発表のため）

5. 分科会の開催：開催予定あり

6. 開催趣旨：

物性物理学・一般物理学分野における研究の振興をはかるためシンポジウムを開催する。特に、今期迄のマスタープランへの提案に当って関連する計画について関連分野に紹介し検討や交流等の機会を設けるとともに、若手研究者による研究の発表を企画し討議や交流等を行い、分野の発展に寄与する。

7. 次第：

9:30-9:35 はじめに

伊藤 公孝*（日本学術会議連携会員、自然科学研究機構核融合科学研究所フェロー）

9:35-9:50 文部科学省からのメッセージ（仮題）

交渉中（文部科学省研究振興局）

9:50-10:20 アカデミアと学術研究（仮題）

五神 真*（日本学術会議第三部会員、東京大学総長）

10:20 <マスタープランへの提案状況（1）>

「非平衡極限プラズマ全国共同連携ネットワーク研究計画」

藤澤 彰英*（日本学術会議連携会員、九州大学応用力学研究所教授）

「パワーレーザーによる高エネルギー密度科学の新展開」

兒玉 了祐（大阪大学大学院工学研究科教授）

「高強度低速陽電子研究施設（仮）」

長嶋 泰之（東京理科大学理学部第二部教授）

「物性科学連携研究体」

岩佐 義宏（国立研究開発法人理化学研究所創発物性科学研究センター創発デバイス研究チームチームリーダー）

ポストデッドライン提案

12:00 昼食

13:30 <若手研究者によるポスター発表とプレポスター>

13:30-14:00 プレポスター(1分 x30件)

14:00-15:00 ポスターセッション (於, ロビー&ラウンジ)

15:00 <マスタープランへの提案状況(2)>

「未踏波長領域の極限コヒーレント光源による物性光科学の開拓」

辛 埴 (東京大学物性研究所教授)

「強磁場コラボラトリー (区分II)」

野尻 浩之 (東北大学金属材料研究所教授)

ポストデッドライン提案

討論

17:00-17:10 終わりに

田島 節子* (日本学術会議第三部会員、大阪大学大学院理学研究科教授)

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

(*印の登壇者は、主催分科会委員)

(提案 14)

公開シンポジウム「原子力総合シンポジウム：福島第一原発事故から 5 年を経て」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 総合工学委員会 原子力事故対応分科会
2. 共 催：一般社団法人日本原子力学会、一般社団法人エネルギー・資源学会、公益社団法人化学工学会、一般社団法人火力原子力発電技術協会、公益社団法人空気調和・衛生工学会、公益社団法人計測自動制御学会、公益財団法人原子力安全研究協会、一般社団法人資源・素材学会、公益社団法人電気化学会、一般社団法人電気学会、公益社団法人土木学会、公益社団法人日本アイソトープ協会、公益社団法人日本医学放射線学会、公益社団法人日本化学会、一般社団法人日本核医学会、一般社団法人日本機械学会、公益社団法人日本技術士会、一般社団法人日本建築学会、一般社団法人日本高圧力技術協会、一般社団法人日本シミュレーション学会、公益社団法人日本セラミックス協会、日本地球化学会、公益社団法人日本地震工学会、一般社団法人日本地質学会、一般社団法人日本電気協会、一般社団法人日本非破壊検査協会、一般社団法人日本複合材料学会、公益社団法人日本分析化学会、日本放射化学会、一般社団法人日本放射線影響学会、公益社団法人日本放射線技術学会、一般社団法人日本保健物理学会、一般社団法人日本溶接協会、一般社団法人日本流体力学会、一般社団法人プラズマ・核融合学会、一般社団法人粉体粉末冶金協会、一般社団法人溶接学会レーザー学会
3. 日 時：平成 28 年 3 月 16 日（水）13：30～17：30
4. 場 所：日本学術会議 講堂 外 2 室
5. 分科会の開催：分科会の開催：開催予定あり
6. 開催趣旨：

平成 28 年 3 月は、東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故発生から 5 年経過の節目にあたるが、未だに多くの方々が仮設住宅に住み、震災の復興は道半ばで、福島第一原子力発電所の事故事象については不明の点も多く、事故終息の先は未だ見えていない状況にあるところ。

事故発生以来、日本学術会議総合工学委員会原子力事故対応分科会では、福島第一原発事故で発生した事故事象の解明、放射線影響に関するデータ整備、津波リスクの知見がどこまで得られ当事者間でどこまで共有されてきたのか、また今後の津波リスク活用方法などについて、本シンポジウムにおい

て検討結果を報告する。

また、パネル討論においては、技術面だけではなく多角的な視野からの自由な討議を行うことにより、分野を超えた協調を通じ学术界がこれから果たすべき役割について議論する。

今後の原子力利用に関する有意義な情報を、本シンポジウムから発信できることを期待している。

7. 次 第：

13：30

開会挨拶

矢川 元基*（日本学術会議連携会員、公益財団法人原子力安全研究協会会長、東京大学名誉教授）

挨拶

大西 隆（日本学術会議第三部会員・会長、豊橋技術科学大学学長、東京大学名誉教授）

（第1部）講演

13：40 福島第一原子力発電事故プロセスの学術会議における検討

松岡 猛*（日本学術会議連携会員、宇都宮大学非常勤講師）

14：10 福島原発事故により放出された放射性核種の環境動態

恩田 裕一（筑波大学生命環境系教授、福島大学環境放射能研究所副所長）

14：40 原子力安全のための耐津波工学～分野間協働と学術の役割

亀田 弘行（京都大学名誉教授、一般財団法人電力中央研究所名誉技術顧問）

15：10－15：25 （ 休憩 ）

（第2部）パネル討論「これからの原子力利用における学術の役割」

15：25－17：15

（ファシリテーター）

成合 英樹*（筑波大学名誉教授）

（パネリスト：候補者）

角山 茂章（福島県環境創造センター所長）

越塚 誠一（日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究科システム創成学専攻教授、元政府事故調査委員会事故原因等調査チームチーム長）

柴田 徳思*（日本学術会議連携会員、公益社団法人日本アイソトープ協会専務）

関村 直人*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究科教

授)

高田 毅士 (東京大学大学院工学系研究科教授)

滝 順一 (日本経済新聞論説委員)

事業者 (東京電力株式会社) (調整中)

田中 知 (原子力規制委員会委員) (予定)

中西 友子 (原子力委員会委員)

宮野 廣 (法政大学大学院客員教授、一般社団法人日本原子力学会事故調査委員会委員)

17:15 閉会挨拶

上塚 寛 (一般社団法人日本原子力学会会長)

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

(*印の登壇者は、主催分科会委員)

(提案15)

公開シンポジウム「科学と産業の凋落と再興：応用物理と未来社会」の開催について

1. 主催：日本学術会議 総合工学委員会 未来社会と応用物理分科会
2. 共催：公益社団法人応用物理学会
3. 日時：平成28年3月19日（土）13：00～17：15
4. 場所：東京工業大学 大岡山キャンパス
5. 分科会の開催：開催予定なし
6. 開催趣旨：
技術立国を目指す日本の最近の問題点を把握し、応用物理の分野から未来社会に向けてこれから進むべき道を議論する。
7. 次第：
13：00 開会の辞
 河田 聡*（日本学術会議連携会員、大阪大学大学院工学研究科教授）
13：10 講演「日本の大学の研究競争力はなぜ弱くなったのか？」
 豊田 長康（鈴鹿医療科学大学学長、元三重大学学長）
13：50 講演「電子立国は、なぜ凋落したか」
 西村 吉雄（技術ジャーナリスト、元東京大学大学院工学系研究科教授）
14：30 講演「大学とアカデミアへの要望／自主性こそ鍵」
 田中 一宜（国立研究開発法人科学技術振興機構研究開発戦略センター特任フェロー）
15：10 講演「日本の大学・公的研究機関からのグローバルベンチャー創出にむけて」
 土谷 大（九州大学水素エネルギー国際研究センター客員准教授）

15：50－16：10 （ 休憩 ）

16：10 総合討論
 （司会）保立 和夫*（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院工学系研究科教授）

(パネラー)

河田 聡* (日本学術会議連携会員、大阪大学大学院工学研究
科教授)

豊田 長康 (鈴鹿医療科学大学学長、元三重大学長)

西村 吉雄 (技術ジャーナリスト、元東京大学大学院工学系研究
科教授)

田中 一宜 (国立研究開発法人科学技術振興機構研究開発戦略
センター特任フェロー)

土谷 大 (九州大学水素エネルギー国際研究センター客員准
教授)

17:10 閉会の辞

中野 義昭* (日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研
究科教授)

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

(*印の登壇者は、主催分科会委員)

(提案16)

公開シンポジウム「生態学の展望」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 生態科学分科会
2. 共 催：日本生態学会
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成28年3月24日（木）13：30～16：30
5. 場 所：仙台市国際センター（第63回日本生態学会仙台大会の会場）
6. 分科会の開催：開催予定なし

7. 開催趣旨：

生態科学分科会では、第22期と23期にわたって、日本の生態学の現状をレビューし、さらなる発展の障害となっている事項について検討を重ね、急速に発展すべき分野についての議論を進めてきた。今回、文書にとりまとめるにあたり、関連学会にも回覧してコメントを求め意見を集約するため、日本生態学会仙台大会の会場において公開シンポジウムを開く。

文書では特に注目すべきものとして、若手研究者の育成、社会的課題への貢献、研究体制と研究費、急速な進展が予想される研究領域、に集中してとりまとめている。

本フォーラムでは、最初に「生態学の展望」の内容を紹介し、そのあと急速な進展が予想される生態学の研究領域を取り上げ、学会員だけでなく広く市民の参加を得て議論する。

8. 次 第：

- 13:30 企画の主旨と『生態学の展望』について
巖佐 庸*（日本学術会議第二部会員、九州大学大学院理学研究院教授）
- 13:45 Future Earthなどの国際共同研究プロジェクトと日本の研究体制
矢原 徹一（九州大学大学院理学研究院教授）
- 14:15 海洋生態系研究の最新動向と展望について
仲岡 雅裕（北海道大学厚岸臨海実験所教授）
- 15:15 開花制御の生理学と陸上植物の環境適応
工藤 洋（京大学生態学研究センター教授）
- 15:45 動物のゲノム生態学

河田 雅圭*（日本学術会議連携会員、東北大学大学院生命科学研究科
教授）

15:45 総合討論

16:15 総括

吉田 丈人*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院総合文化研究科
准教授）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

(*印の登壇者は、主催分科会委員)

(提案17)

日本薬学会第136年会一般シンポジウム 日本学術会議薬学委員会医療系薬学分科会企画「薬学研究のこれから－基礎と臨床の架け橋－」の開催について

1. 主催：日本学術会議薬学委員会医療系薬学分科会、日本薬学会
2. 共催：なし
3. 後援：なし
4. 日時：平成28年3月27日（日）9:00～11:30
5. 場所：パシフィコ横浜会議センター301
6. 分科会の開催：開催予定あり
7. 開催趣旨

近年、臨床現場における諸問題や疑問を基礎研究にフィードバックするリバーストランスレーショナルリサーチ（rTR）が、薬学研究における新たな潮流として注目を集めている。医療系薬学分科会では、これまでrTRをテーマにシンポジウムを開催するなど活動を展開してきた。rTRの意義をより高めるためには、基礎研究から臨床研究へと順方向に展開するトランスレーショナルリサーチ（TR）と両輪となることが望ましい。すなわち、臨床から基礎へのフィードバック研究を行うと同時にさらに基礎研究の成果を臨床へ応用するというrTR/TRサイクルをダイナミックに展開することが重要と考えられる。本シンポジウムでは、アカデミア及び臨床現場において本研究領域をリードしている研究者に最新の研究成果をご紹介いただく。また、レギュラトリーサイエンスの観点から本研究領域のあり方についても話題を提供いただく予定である。シンポジストから提供された情報に基づき、基礎研究と臨床研究のブリッジングをキーワードに薬学研究の将来像を議論し、さらなる薬学研究の発展の方向性を探る機会としたい。

8. 次第

座長：橋田 充*（日本学術会議連携会員、京都大学大学院薬学研究科教授）
望月 眞弓*（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学薬学部教授）

9:00 趣旨説明
平井みどり*（日本学術会議第二部会員、神戸大学医学部附属病院薬剤部薬剤部長）

9:05 「基調講演」

杉山 雄一* (日本学術会議連携会員、国立研究開発法人理化学研究所
特別招聘研究員)

9:30 「レギュラトリーサイエンスの視点から」
長野 哲雄* (日本学術会議第二部会員・第二部部長、独立行政法人医
薬品医療機器総合機構理事)

9:45 「医療現場の視点から：リバーストランスレーショナルリサーチとしての
の薬剤疫学」
川上 純一 (浜松医科大学附属病院薬剤部薬剤部長)

10:00 「標的絶対定量的プロテオミクスに基づく Pharmacoproteomics : 国際共同
研究の重要性」
寺崎 哲也* (日本学術会議連携会員、東北大学大学院薬学研究科教授)

10:15 「In silico 研究の視点から」
奥野 恭史 (京都大学大学院医学研究科特定教授)

10:30 「薬物代謝研究の視点から」
中島 美紀 (金沢大学大学院医薬保健学総合研究科教授)

10:45 「総合討論」

11:25 総括・閉会挨拶
高倉 喜信* (日本学術会議連携会員、京都大学大学院薬学研究科教授)

11:30 閉会

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

(*印の登壇者は、主催委員会委員)

(提案18)

公開シンポジウム「昆虫類をめぐる外来生物問題と対策」の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会応用昆虫学分科会、日本昆虫科学連合、
日本応用動物昆虫学会、日本昆虫学会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成28年3月29日（火）14：00～18：00
5. 場 所：大阪府立大学Uホール白鷺
6. 分科会の開催：開催予定なし
7. 開催趣旨：

第23期日本学術会議の農学委員会応用昆虫学分科会では、感染症に関わる衛生昆虫学研究の強化などを主張の骨子とする提言を発出する予定であり、平成27年に開催したシンポジウムでは「衛生動物学」を取り上げた。今回のシンポジウムでは、海外からの感染症の侵入と関連する外来昆虫を取り上げ、その現状と最新の情報を提供し、今後の対策について広く意見を求め、理解を深める。

近年の人と物の移動はグローバルでスピードも増す一方であり、海外からの害虫類の侵入や外来昆虫の意図的導入は後を絶たない。また、温暖化等の影響による環境の変化も影響し、新たな外来害虫による被害や生物多様性を脅かす点でも危惧されている。日本の「生物多様性国家戦略」では、特に固有の生物相を持つ島嶼への配慮や、農作物、家畜等に悪影響を及ぼす外来種の侵入規制がうたわれている。外来生物法が平成17年6月に施行され、昆虫ではセイヨウオオマルハナバチ、アルゼンチンアリなどが特定外来生物として指定され対策がとられている。また、グリーンアノールなど外来生物の侵入により壊滅的な打撃を受けてきた小笠原諸島など固有の生物相をもつ島嶼でも現在様々な対策がとられている。さらに、ペット昆虫類の意図的導入は在来種への脅威や遺伝子汚染の問題を引き起こす可能性がある。

そこで、本シンポジウムでは外来昆虫研究の最前線で活躍する研究者を演者とし、シンポジウムを計画した。日本の外来昆虫の特徴を紹介し、特定外来生物マルハナバチとアルゼンチンアリの生態系への影響と対策、ペット甲虫類の意図的導入問題の状況、小笠原における固有昆虫保全対策を紹介し、在来送粉昆虫による外来植物の繁殖干渉の問題を提起する。

8. 次 第：

I 開 会 (14:00)

II 日本学術会議応用昆虫学分科会の活動報告 (14:05~14:15)

嶋田 透* (日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

III 日本昆虫科学連合活動報告 (14:15~14:25)

多田内 修* (日本学術会議連携会員、九州大学大学院理学研究院生物科学部門特任教授、日本昆虫科学連合代表)

IV 講 演 (14:25~17:20)

座長：石井 実 (大阪府立大学理事・副学長・21世紀科学研究機構長)

趣旨説明 (10分)

- 1) 森本 信生 (国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構畜産草地研究所病害虫研究グループグループ長)
「日本の外来昆虫相の特徴 北米およびハワイと比較して」(25分)
- 2) 五箇 公一 (国立研究開発法人国立環境研究所生物・生態系環境研究センター主席研究員)
「外来マルハナバチの生態系影響と対策」(25分)
- 3) 高倉 耕一 (滋賀県立大学環境科学部准教授)
「在来昆虫類が駆動する繁殖干渉と外来種問題」(25分)

休憩 (15分)

- 4) 荒谷 邦雄 (九州大学大学院比較社会文化研究院教授)
細谷 忠嗣 (九州大学持続可能な社会のための決断科学センター准教授)
「ペット甲虫類における外来種問題 ~意図的導入の罪過とその贖罪~」
(25分)
- 5) 坂本 佳子 (国立研究開発法人国立環境研究所生物・生態系環境研究センター研究員)
「特定外来生物アルゼンチンアリの根絶までの道のり」(25分)
- 6) 戸田 光彦 (一般財団法人自然環境研究センター主席研究員)
秋田 耕佑 (一般財団法人自然環境研究センター研究員)
高橋 洋生 (一般財団法人自然環境研究センター主任研究員)
「小笠原における固有昆虫保全のための外来種対策」(25分)

V 総合討論 (17:20~18:00)

VI 閉 会 (18:00)

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

(*印の講演者は、主催分科会委員)

(提案19)

公開シンポジウム「日本の畜産学2016、現状と展望」の開催について

1. 主 催：日本学術会議食料科学委員会畜産学分科会、日本畜産学アカデミー、公益社団法人日本畜産学会

2. 共 催：なし

3. 後 援：なし

4. 日 時：平成28年3月30日（水）9：00～12：30

5. 場 所：日本獣医生命科学大学411講義室
（東京都武蔵野市境南町1-7-1）

6. 分科会の開催：開催予定なし

7. 開催趣旨：

畜産学分科会では第19期以降、数件の提言等を発出してきたが、それを踏まえ、第23期では新たに提言を発出する予定で準備を進めている。今回のシンポジウムでは既に発出した提言等がその後の畜産学の教育研究にどのように反映されたかの検証を行い、今期発出する提言の取りまとめのための参考にする。シンポジウムは、「日本の畜産学2016、現状と展望」のタイトルの下、開催する。対象としては、公益社団法人日本畜産学会会員や畜産学分野に進学希望の大学生・高校生に加えて広く一般市民も想定し、参加を呼びかける。内容面では、発出した提言や現在準備を進めている提言案の概要を紹介するとともに、過去の提言を踏まえて取り組んできた畜産学の教育研究について事例紹介を行う。特に地域活性化に貢献する取り組み、経営学的視点からの技術開発課題、私立大学における畜産学教育の位置付け、畜産物の海外輸出促進のための研究課題及び「World Congress of Reproductive Biology」(WCRB)の日本開催に関連して、畜産学、特に家畜繁殖学に対する期待を聞き議論する。そしてそれらの総括を、現在取りまとめ中の提言案に反映させる。

8. 次 第：

司会 梅村 恭子*（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構畜産草地研究所草地管理研究領域上席研究員）

9:00 開会挨拶

渡邊 誠喜（日本畜産学アカデミー会長、東京農業大学名誉教授）

9:05～9:35 学術会議畜産学分科会の発出した対外報告と今後の活動

眞鍋 昇*（日本学術会議連携会員、大阪国際大学教授・学長補佐）

- 9:35～10:05 地域創成と畜産学の貢献
枝重 圭祐（高知大学農学部教授）
- 10:05～10:35 経営学からみる畜産学と技術開発課題
小澤 壮行（日本獣医生命大学獣医学部教授）
- 10:35～11:05 私立大学経営と畜産学の未来
柏崎 直巳*（日本学術会議特任連携会員、麻布獣医学園理事長、
麻布大学獣医学部教授）
- 11:05～11:35 畜産物輸出と畜産学の課題
入江 正和（近畿大学生物理工学部教授）
- 11:35～12:05 WCRB の日本開催と日本の家畜繁殖学
束村 博子（名古屋大学大学院生命農学研究科教授）
- 12:05～12:25 総合討論及び総括
佐藤 英明*（日本学術会議第二部会員、独立行政法人家畜改良セ
ンター理事長、東北大学名誉教授）
- 12:25～12:30 閉会挨拶
小泉 聖一（日本畜産学会理事長、日本大学生物資源学部教授）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（*印の登壇者は、主催分科会委員）